

今日のみことば

□ 4月15日(日) サムエル記下 10章

ハヌンの、ダビデの家来たちにたいするひどい仕打ちが、戦争を引き起こしました。しかし疑いもなく近隣諸国は、イスラエルの偉大な王を恐れた。

□ 4月16日(月) サムエル記下 11章

ダビデのような信仰深い人が、どうしてこのような罪を犯したのか。しかしどんな人でも、主の助けがなければ、もろくも失敗をするのです。

□ 4月17日(火) サムエル記下 12章

神は預言者ナタンをダビデのもとに遣わし、一つの譬話を語らせられた。するどい神の言葉はダビデの心を刺し貫き、ダビデは罪を告白し、神はその砕けた魂を顧みて下さいました。

□ 4月18日(水) サムエル記下 13章

王として彼が犯した罪は、彼の一族と国に多くの悪い模範として、問題を次々に起こさせた。一家の家長たる者の責任の重大さを覚えさせられる。

□ 4月19日(木) サムエル記下 14章

ダビデはその息子たちを上手くしつけることができず、彼らは、利己的で反抗的な者になった。ダビデの子たちへの甘さがアブシャロムの反乱を招いたと言える。

□ 4月20日(金) サムエル記下 15章

ダビデは後継者としてアブシャロムではなくソロモンを選んだ。アブシャロムは計略を巡らし、ダビデへの反乱を起こした。ダビデはエルサレムを去ることとなる。

□ 4月21日(土) サムエル記下 16章

ダビデの悲境は、正直な人々の善と、悪い心の人々の悪を、はっきりとさせました。ツイバとシムイは自分の利益のみを求めてダビデを陥れた。

ろ ぼ No. 1863
2018年 4月15日
日本バプテスト 立川キリスト教会
牧師 大川 博之

ペテロー1:3

わたしたちの主イエス・キリストの父である神が、ほめたたえられますように。神は豊かな憐れみにより、わたしたちを新たに生まれさせ、死者の中からのイエス・キリスト復活によって生き生きとした希望を与えられた。

テレビのコマーシャルで気になるものを見ました。母子の会話で母親が「風ってわかる」と子に聞くと、「木の葉が揺れているとき風が吹いているのがわかる。こうして走っていると頬をなでる優しい風を感じる」と言う会話が、なぜか私の心にしみました。そしてイエスのニコデモへの言葉を思い出しました。イエスが「だれでも新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」と言われ、ニコデモは「人は年をとってから生まれることが、どうしてできるのですか」と問い直すのにイエスは「だれでも、水と霊とから生まれなければ、神の国にはいることはできない」と言われ、「風は思いのままに吹く」と語りだされた出来事を(ヨハ3:1-8)思い起させて

いただきました。私たちは信仰に生きていることをしっかりと心に留めさせいただくのでした。

イエス復活後、弟子たちがいただいた大いなる力は、今日の私たちもしっかりと聞き取らせていただきますが、ペテロが私たちに語る言葉に、私は聞き耳を立てさせていただいています。死人のよみがえりは、常識的な出来事ではありませんが、神さまは確実に、私たちの罪の贖いのために十字架に死なれたイエスを、死から復活させられました。ペテロは「あなた方は、キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストによって信じています。従って、あなた方の信仰と希

望とは神にかかっているのです」(ペテロ1:21)というのです。彼はイエスの裁きの庭で、大声で明確にイエスを知らないと否定したものです。またイエスをご自身のよみがえりについて語られてきた言葉を、聞き流してきた人物の一人でもあります。そのイエスが復活されて、目の前に立たれたお姿を見て、どれほど驚愕したであろうかと想像をしています。そしてしっかりと復活信仰に立つものとされたかを知ることでした。

「神の豊かな憐れみにより、わたしたちを新しく生まれさせ死者の中からイエス・キリストの復活によって、生き生きとして希望が与えられた」(ペテロ1:3)と言う彼は、もはや恐るべきいかなるものも彼にはありませんでした。大胆にキリストにあって生きることでした。私はこのペテロの告白を聞きとらせていただくことは、パウロのものとは基本的に違うものだと聞きとるのでした。ペテロは迫害をじかに知っていました。打ちたたかれ、投獄され、しばしば脅かされていました。仲間のクリスチャンが死に、教会が離散することを目の当たりに見えました。そうゆうわけで、信仰のために散り散りになっている教会に、慰めと希望を与え、キリストに忠実であり続けるように、再三にわたって勧めるのでした。そのペテロの確信こそ私は、私たちがしっかりと確保していなければならないことだと思っているのです。「キリストを死者の中から復活させて栄光をお与えになった神を、キリストのよって信じています」とのペテロの確信です。

————— 《 聖書の学び・祈祷会 》 —————

コリントー 7:17-24 召されたことに目を向けて

パウロがここで扱っている問題は、結婚についての事柄ですが、そのことに留まらないで、キリストに従う者としての私たちの生き方について、基本的に私たちが大事にしなければならないものが何であるかを告げます。私たちはよく、あるがままの自分を、と言います。私たちにとって最も大事にしなければならないのは、この召されたときの私を大事にするということです。

パウロは「おのおの主から分け与えられた分に応じ、それぞれ神に召されたときの身分のままですみなさい」と言います。神さまが私たちに与えてくださるものは、私たちにとって最良のものを与えて下さるのであって、しっかりと与えられた賜物を用いることは心得ていなければならない第一のことです。



Read God's Word.

次週の聖書・説教

ヨハネ3:1-16 新しく生まれる